

会 議 録

会議名称	タウンミーティング (走入・見砂・清水原)	記録者	企画振興課 課長補佐
日 時	平成29年12月7日(木) 午後7時～午後8時50分		
場 所	走入集会所		
出席者	<p>町 長：町長、参事、財政課長、企画振興課長、健康福祉課長 地域整備課長、学校教育課長、 健康づくり推進室長</p> <p>区長会：走入区長、清水原区長、見砂区長</p> <p>町 議：塚本議員</p> <p>住 民：9人</p>		
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 出席者紹介・開催趣旨説明(参事) 4 町政報告(財政課長、企画振興課長) 5 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・保育所統廃合について(学校教育課長・健康福祉課長) ・下水道使用料について(地域整備課長) ・地区からの要望等 6 フリートーク 7 安心ほっとメール登録について 8 閉会(20:50) 		
会議結果	<p>●質問</p> <p>人口動態で転出の多い年齢層は。またその理由を把握しているのか。</p> <p>○回答(町長)</p> <p>転出の大部分は就職進学で行ったきりとなっている。また、働く場が少ないのも原因となっている。また、買い物の場が少ない、遊ぶ場が少ない等いろいろな意見を聞くが、全てを解決する万能な方法はない。総合戦略の中で少しずつでも改善していきたいと考えている。</p> <p>その中で、小学校、保育所はある程度あった方が子育てはしやすく、教育環境も良いものにしやすいと考えます。ただ経費を抑えるためだけに2小学校2保育所に統廃合する考えはない。</p> <p>○回答(企画振興課長)</p> <p>20代から30代の人口移動が多い。転入転出の流れでは、能登方面から転入し、加賀方面に転出する傾向となっている。</p>		

●質問

宝達志水町の人口等の推移資料で人口の数字はあっているのか。
また、出生率1.8は甘いのではないか。

人口減少が進む中、宝達志水町が10年後に生き残れるのは難しい
と考えます。過疎地域で人口減少対策を行っていても人口が多いところ
になびいて行く流れになり本来の個性が消えてしまう。

学校の話聞いて複式学級になった場合、町の方で先生を雇用する方
がまだ、町のアイデンティティを残す良い方法ではないか。

出生数が少ない中、統廃合は町の在り様を考え短期のスパンではなく
長期スパンで考えてほしい。

○回答（町長）

出生率1.8に近づけていけるようにしたい。また、統廃合は先々ま
で見据えてどんな配置が良いか検討していきたい。町の個性、良いと
ころをアピールし、先を見て必要な投資をしっかりと行い住みよい活気
ある町づくりにしていかなければならないと思っている。

○回答（企画振興課長）

人口ビジョンの数値については、国勢調査を基に算出している。
住民基本台帳の数値とは違います。

●質問

なぜ、このような財政状況になるまで下水道事業を整備し続けたの
か。

○回答（地域整備課長）

国、県の施策で昭和60年前後から下水道事業の普及促進を図った。
県内市町村も同様な考えで進められた。

平成14年ごろから国からの交付金の削減や人口減少が進み、当初
では予測していない状況となった。

●質問

今後の展開は。

○回答（地域整備課長）

今後は、下水道管の埋設ではなく個別に合併浄化槽を設置し費用の
削減を図りつつ、下水道処理施設の統廃合を進め経費を抑えていき
たい。あわせて接続の加入促進に努めていく。

○回答（参事）

接続のお願いをしているが、中々入っていただけない現状であるが
引き続き町職員が個別訪問し普及促進を図る。

【地区からの質問】

●質問

防災無線の改善について

○回答（危機管理室長）

町では、町内83箇所に防災行政無線の屋外拡声子局（スピーカー）を整備し、平成26年4月から運用しています。

屋外拡声子局は、基本的に各地区会館に設置し、音達できない場合は地区により複数の子局を設置しています。

屋外拡声子局を増設する場合は、立地的な問題（電界強度や音の反響等）もあり、バランス良く設置するため、周辺集落や校下など全体で考える必要があり、早急に増設することは非常に困難であります。

また、自然条件などにより放送内容が聞き取りにくい場合は、同様の内容を下記の情報伝達手段で確認できますので、一度、ご確認ください。

- ①「メール配信サービス（安心ほっとメール）」
- ②「ホームページ」
- ③「ケーブルテレビ」
- ④「電話応答装置 Tel 29-2288」

暫定策／代替案の、さくらチャンネルにリアルタイムに情報を出す仕組みについては、現在も実施しておりますが、宅内受信設備の設置については、財政的な観点や導入方法や効果も含めて、今後、中長期的な計画の検討が必要と考えております。

●再質問

防災無線は気象に関係なく聞こえない。

○回答（町長）

防災無線に流す全ての情報を安心ホットメールで確認できるようにするので、ぜひ登録してほしい。

メールをやらない人は近所通しで声かけしていただく等安全確保に努めてほしい。

●質問

害獣（イノシシ）対策について

ここ数年、害獣「イノシシ」被害が猛烈な勢いで拡大していますが、町として包括的な対策をどのように考えておられますか？

特に、中山間地では田畑はもちろん民家の庭先まで侵入し掘り返し被害が拡大しています。幸い地区では人的被害は発生しておりませんが、新聞では子供が人的被害を受けるといった報道もなされています。現在、当区では最大の困りごとと思っております。

また、路肩を崩される事によって側溝が埋まり集水／排水機能が失われ、大雨時には雨水が道路に溢れた雨水により道路決壊の恐れが懸

念されます。

○回答（農林水産課長補佐）

現在、町ではイノシシの獣害対策として、『電気柵等による防除』、『檻設置による駆除』、『緩衝体整備事業による出没の抑止』を行っています。

電気柵は、イノシシが電気柵に触れて通電することでショックを与え、“ここに近づくと怖い”ということを植え付ける効果があります。主に田畑などの農地にイノシシを入らせないようにするために用いています。

檻による駆除は、檻に餌である米糠を設置してイノシシを誘因して捕獲します。主に集落付近の里山などに設置し、農業被害はもちろん人的被害が未然防止できるよう有害鳥獣捕獲隊の協力を得ながら進めています。捕えたイノシシは食肉としても利用することができます。

これまでは、主にこのふたつの方法でイノシシ対策を行っていましたが、今年度から緩衝帯整備事業による出没の抑止を行っています。

この事業は、クマ・イノシシなどの野生獣の出没を「抑止」するために、集落周辺の里山林において、森林の見通しを良くする伐採や藪の刈払い等を行い、人里に野生獣が出没しにくい環境整備を行うもので、複数の集落が連携し広域的に進めることでより効果が発揮されます。今年度よりモデル地区として、県の協力を得ながら5カ年で森本区から宝達区までの広域農道沿いに緩衝帯の設置を進めています。設置後の維持管理については、集落又は任意の管理団体で行います。

「防ぐ・捕まえる・入れない」町のイノシシ対策は、この3つの方針で進めます。

●再質問

5カ年で森本区から宝達区となっているがその後の計画について

○回答（農林水産課長補佐）

5年後の計画は検討中

●質問

県道「氷見・志雄線（県道300号）」の拡幅について

○回答（地域整備課長）

県道「氷見・志雄線」走入地内の道路拡幅におきましては、数十年来の要望ではありますが、石川県が行う県事業で道路改良等を実施するには町も負担金を支払うことが必要であります。

町として、石川県が管理する国・県道等に対するすべての改良等の集落要望に応え、県に対し要望することは大変厳しい状況であります。

現在、町では、県単道路改良工事として一般県道「向瀬・杉野屋線」の整備が進められております。

今後は、まず現在行っている路線の完成を目指すとともに、町内における石川県に対する要望箇所をとりまとめ、県と相談し、また、町の財政状況なども勘案しながら要望に向け取り組んでいきたいと考えております。

●質問

県道「氷見・子浦線

(県道300号)」の定期的な除草について

○回答(地域整備課長)

石川県に対しましては幾度となく、町内全域の県管理の道路の除草作業については要望しております。

今回の要望を受け石川県に確認したところ「地域の方々の道路愛護活動により、道路環境が向上しており、大変ありがたく感謝している。これらの活動と連携し、効果的な時期を見計らって除草を行っている。除草後は地元からの要望やパトロールにより、草が繁茂し通行に支障を来し除草が必要と認められる箇所については適切に対応したい。」とのことでした。また、「県内全域において同様の要望があるが、限られた予算の中で、年に1回程度の草刈りしかできない状況である。」とも聞いているところですが、今後も粘り強く、除草の回数を増やしてもらえるよう要望していきたいと考えています。

●意見

今年7月の大雨で清水原から見砂間の県道で側溝から水が溢れ道路に流れ出た。原因は道路除草で刈り切った草を放置したためである。

道路災害にもつながるため、今後は業者に対し指導してほしい。

○回答(地域整備課長)

側溝の管理は適正に管理していく。

●再質問

県道「氷見・志雄線」走入地内の道路拡幅は財政的に厳しいから出来ないということか。当路線は富山県へのう回路道路として利用され、また、交通量は向瀬杉野屋線より多いのになぜ向瀬杉野屋線が優先されるのか。昔から3集落の長年の要望事項である。

○回答(町長)

切実な思いがあるのは了解した。現状もわかりました。

【フリートーク】

●質問

人口減少が進む中、危機感を感じる。住民から喜ばれるように。住

みたいと思うような町づくりを目指してほしい。

○回答（町長）

人を呼ぶことも大事だが、現在、住んでいる人が幸せに思えるような町づくりに取り組んでいきたい。

●質問

北志雄地区で除雪機械を要望しているが、早期採択をお願いします。

○回答（町長）

出来る限りご要望にそえるようにしたい。

●質問

集会所の火災報知器を町で負担していただけないか。

○回答（町長）

検討します。

●意見

見砂集落では、会館には一切費用をかけていない。

●質問

熊は冬眠するが、イノシシは冬眠するのか。

○回答（農林水産課長補佐）

イノシシは冬眠しません。

平成元年までは多くなかったが、平成2年から増加している。

爆発的に増加している原因は、近年雪が降らないので、イノシシは冬を越すことができるようになった。